


令和5年度 研究サマリー

研究会名称	腎泌尿器癌研究会	
代表者所属	東京女子医科大学泌尿器科	
代表者氏名	高木敏男	
研究方法・結果	<p>本研究会は、腎泌尿器疾患についての基礎研究・臨床研究を行うことによって、その診断や治療技術の進歩に寄与し、社会に貢献することを目的としている。さらに、国内・国外から多数の医師やメディカルスタッフに対し、教育・研究指導を行い、多くの知見を国内のみならず世界に向けて継続的に発信している。</p> <p>泌尿器癌研究においては、主に転移性腎細胞がんに対する免疫チェックポイント薬予後予測バイオマーカーの開発をおこなっている。同薬剤を投与した患者の末梢血免疫細胞をフローサイトメトリーを用いて解析したり、腫瘍細胞に浸潤する免疫細胞を多重染色し、空間的遺伝子解析を行うことで、使用薬剤別の効果予測因子を評価し、結果を得て、学会発表を随時行っている。</p> <p>移植分野においては、新規の空有間オミックス解析を用いることで顕微鏡的な所見では得られない移植腎拒絶反応の病態整理を明らかにしたり、ドナー由来 cell free DNA を利用した拒絶反応を術前に予測し得るかの解析を臨床検体を用いて行っている。基礎的研究においては、遺伝子修飾した Treg 細胞を利用することで、移植後拒絶反応が制御可能であることをマウス心臓、骨髄同時移植モデルで検証している。</p> <p>上記のような、基礎的かつ臨床的な社会に貢献する研究を今後も続けている所存である。</p>	
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）	<p>英文、和文論文 63 編（別紙参照）</p>	